

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1200

令和8年3月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



アトリ（エキスポ'90 みのお記念の森・箕面市内）

トピックス：新たな保護林を訪ねて～臥牛山探訪記～（計画課）

ニュース：岡山森林管理署、広島北部森林管理署

花草木：フユイチゴ

我が署のスタッフ：島根森林管理署

森林事務所等紹介：西城森林事務所（広島北部森林管理署）

国有林最前線：滋賀森林管理署

新たな保護林を訪ねて～臥牛山探訪記～

【計画課】

◆はじめに

「保護林」とは、原生的な自然を保護・管理することにより、森林生態系の保護や学術の研究等に資することを目的としている国有林野を指します。この制度は大正4年（1915）にはじまり、令和7年（2025）で創設から110年を経た歴史あるものです。

近畿中国森林管理局では、保護林を適切に保護・管理するため、モニタリング調査を実施するとともに、学識経験者で構成される「保護林管理委員会」を設置し、保護林の管理方針について毎年審議を行っています。

令和7年度の保護林管理委員会では、新たに「^{がぎゅうざん}臥牛山モミ・ウラジロガシ・カヤ等希少個体群保護林」が設置されるとともに、「^{いりたに}入谷ブナ・ツガ・ウラジロモミ希少個体群保護林」及び「^{にしのごう}西ノ河モミ・ツガ・ブナ遺伝資源希少個体群保護林」の2つの保護林については、周辺の森林を保護林に加えて、統合・拡充することとなりました（表1）。

今回は保護林が新設される臥牛山国有林について、紹介していきます。

表1：新たに設定される保護林の区分と名称

年度	区分	設定名称	所在地
R8	新設	臥牛山モミ・ウラジロガシ・カヤ等希少個体群保護林	岡山県高梁市
R8	拡充	入谷ブナ・ツガ・ウラジロモミ希少個体群保護林	奈良県吉野郡天川村
R8	統合・拡充	西ノ河モミ・ツガ・ブナ遺伝資源希少個体群保護林	和歌山県日高郡日高川町

◆臥牛山国有林について

臥牛山国有林は岡山県の備中高梁駅近くにある国有林であり、山頂には天守が現存する12城の一つである重要文化財の備中松山城が存在するほか、天然記念物の野生のニホンザルが生息しています。

さらに、昭和26年（1951）には日本で初となる森林植物園が新見営林署（当時）により開園し、早くから観光地として有名でした。

林相は、モミやカシ、シデ類を中心に数百種の植物からなり、モミやカヤの巨木のほか、希少種も多く生息しています。今回新設される保護林の面積は臥牛山国有林の34%となる45.58haであり、生態系保全上の重要な区域が選ばれています。

なお、臥牛山国有林は過去にも保護林が設定されており、昭和32年度（1957）に最初の保護林が設定されました。

昭和49年（1974）からは新たに「レクリエーションの森」の風景林にも重複して設定され、平成5年度（1993）までは両制度が平行して運用されていました。その後、制度の見直し等を経て、平成6年（1994）に保護林が解除されましたが、平成29年（2017）までは引き続き「レクリエーションの森」として活用されていたことが過去の資料からうかがえます（表2）。

表2：臥牛山国有林を巡る主な制度の歩み

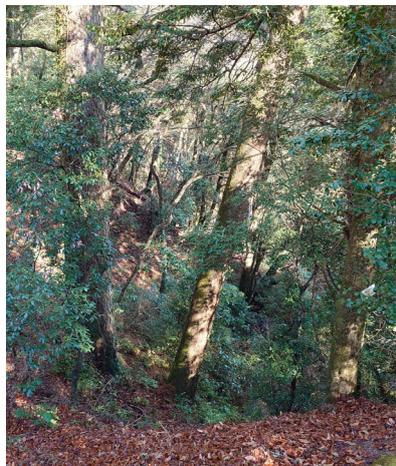
元号(西暦)	主なできごと
昭和31年度(1956)	・旧風致保護林として設定される。
昭和48年(1973)	・追加で旧学術参考保護林が設定される。
昭和49年(1974)	・「レクリエーションの森」の区分うち、風景林として新たに設定される。
平成6年(1994)	・保護林の設定が解除され、「レクリエーションの森」の風景林に一本化される。 (旧保護林と風景林はともに風景を保護する観点で重複しており、制度の見直しを受けて同年4月に保護林が解除された)
平成29年(2017)	・「レクリエーションの森」の風景林を廃止。 (廃止を含めた抜本的な見直しを実施したことによる)

◆臥牛山の森林

12月上旬、私たちは臥牛山へと向かいました。臥牛山内部を探索すると、すぐにモミやカヤの大木が目につきます。特にモミは県内随一の分布箇所であり、今回、保護林に設定された理由の1つにもなっています。約160年生の天然林は圧巻であり、悠久の時を経た森林が保護林に設定されるのも納得です。



①モミの大木



②カヤ、モミの森林



③城内の巨大杉

ふもとの「ふいご峠駐車場」から備中松山城までの登山道は整備されており、徒歩20分ほどで簡単に行くことができるので、雄大な自然と歴史ある文化を感じられる臥牛山に、ぜひ一度足を運んでいただけたらと思います。



④備中松山城



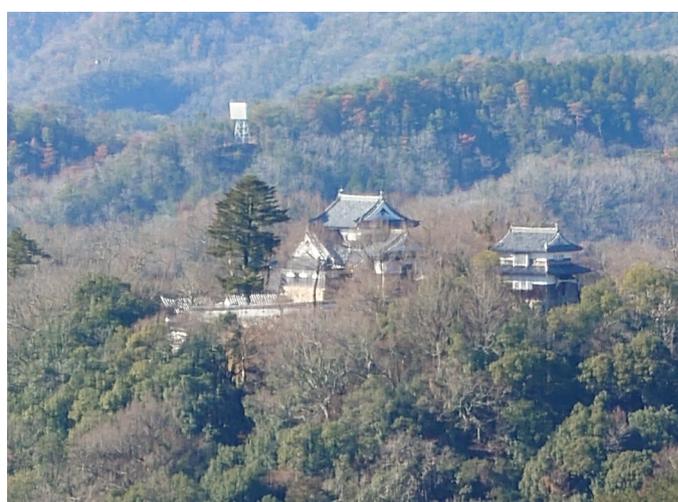
⑤整備された登山道

◆佐与谷山国有林の展望台より臥牛山を望む

備中松山城は「天空の城」とも呼ばれ、運がよければ美しい雲海が広がることでも有名です。近くの佐与谷山には展望台が設置してあり、人気の撮影スポットとなっています。この日はあいにくの快晴でしたが、雰囲気を感じていただければ幸いです。



⑥備中松山城の遠望



⑦遠望の拡大

にちなん中国山地林業アカデミーの皆さんの現地実習を受け入れました。

【岡山森林管理署】

岡山森林管理署では、令和8年2月10日（火）、にちなん中国山地林業アカデミー（鳥取県日野郡日南町、以下「アカデミー」という。）から9名の方を受け入れて現地実習を行いました。

この取り組みはアカデミーのカリキュラムの一環であるニホンジカ等の鳥獣被害に関して、防除等に取り組んでいる現場を体感して学ぶ場として、令和5年度から行っているものです。

午前中は、当署会議室にて署長の挨拶の後、鳥獣被害対策を題材にニホンジカ等の被害状況や被害防止対策の取り組みについて座学を行いました。



山崎署長の挨拶



座学を受けるアカデミーの生徒

午後からは、^{だいとやま}大戸山国有林（岡山県久米郡美咲町）に移動し現地実習を行いました。

まずは、植栽地に設置した防護柵を視察しました。防護柵の設置費用は高額なため、支柱の代わりに立木を利用した方法や安価なアニマルネットを使用した造林の低コスト化の取り組みについて説明を行いました。



実際に設置されている防護柵の見学

アカデミーの皆さんは、熱心に説明を聞き、防護柵に触れ写真撮影をしていました。また、設置条件に適した防護柵の種類や点検・修繕の頻度など積極的に質問し理解を深めていました。

その後は、シカ罠（小林式誘引捕獲法）設置実習を行いました。



職員によるシカ罠（小林式誘引捕獲法）設置実演

アカデミーの生徒はカリキュラムにおいて狩猟免許を取得しているものの、実際に罠を設置するのは初めての方が多く、実習では指導したとおりに設置するも作動しないなど苦戦している場面もありましたが、試行錯誤し楽しみながら取り組んでいました。

岡山森林管理署では、引き続き現地実習の受け入れを行い、林業大学校等の運営に貢献する活動を進めます。アカデミーの皆さんの今後のご活躍を祈念しています。

請負事業体等連絡協議会を開催しました。

【広島北部森林管理署】

広島北部森林管理署では、令和8年1月23日（金）、令和7年度請負事業体等連絡協議会を開催しました。（請負事業体9社10名参加）

第一部では、三次労働基準監督署及び林業・木材製造業労働災害防止協会広島県支部から、労働安全衛生法等の改正や労働災害防止推進計画の取組、林業における労働災害件数の推移や傾向、災害の特徴などについて、林業の現場における災害防止に向けての安全指導を受けました。



第一部での安全指導の様子

続いて第二部では、当署から造林・素材生産事業の総合評価の評価項目や競争参加資格確認申請様式の改正について説明し、造林及び素材生産の発注見通し等により情報提供を行いました。

加えて、最近の大規模な林野火災の発生を契機として、自治体等が運用する林野火災注意報・警報などの新たな取組について情報提供しました。

また、請負事業体等から、立木販売における条件整備、素材生産から造林作業の一貫請負、下刈作業に関しての要望などがあり、有意義な意見交換を行うことができました。



第二部での意見交換

広島北部森林管理署では、引き続き関係機関との連携・協力を進めるとともに本協議会での意見を参考に、安全第一に国有林野事業を進めてまいります。



森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

ホーム＞報道・広報＞イベント情報＞森林（もり）のギャラリー

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【治山課】

○第2回 近畿中国森林管理局 緑の守り手認定事業者を公表しました。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム＞報道・広報＞緑の守り手認定事業者制度について＞緑の守り手認定申請について＞第2回 緑の守り手認定事業者制度＞第2回 緑の守り手認定事業者の公表について

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/seibi/02_mamorite_kouhyou.html



【技術普及課】

○「水都おおさか森林（もり）の市2026」

令和8年10月25日（日）に開催します！

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム＞報道・広報＞イベント情報＞水都おおさか森林（もり）の市

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



花草木

【フユイチゴ】

フユイチゴ（冬苺、学名：Rubus buergeri）は、バラ科キイチゴ属の常緑性のつる性木本。つる植物のように匍匐^{ほふく}して地表を這い、高さはせいぜい30センチメートル。全体に毛があるがトゲは少なく、茎の節から発根^ふして殖えていきます。

花の時期は9月から10月で、葉腋から花茎を出し、穂状に花弁が5弁の白い花を数個つけ、晩秋から一か月かけて赤い果実となり、11月から1月頃に熟します。いわゆるキイチゴの形で、食用となります。木苺としては酸味が強くイチゴ同様にビタミンCが豊富です。

多くの木苺類は夏に熟しますが、フユイチゴは冬に熟することが和名の由来であります。別名は「カンイチゴ」「クリスマスチェリー」などです。

フユイチゴの花言葉は、真心の愛、未来の予感、尊敬と愛情、甘い思い出、希望などです。



大阪で見つけたフユイチゴの果実

我が署のスタッフ 島根森林管理署

幸前 克昌 (こうぜん かつまさ) (令和5年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

経営担当として、収穫・計画・測定・立木販売業務等、幅広く業務に取り組んでいます。業務内容が多岐にわたり、事業の計画も作成するため、目先の仕事のみならず、今後の業務について考えながら仕事をすることが必要だと感じております。担当業務知識の習得も勿論、多くの人と関わるため外部折衝能力も身に付けていきたいです。

【職場の雰囲気は？】

島根署は仕事に真摯に向き合っている方が多く、各担当が仕事に熱意をもって取り組んでいて、わからないことがあれば上司、後輩を問わず、丁寧に教えてくれるため、業務を進めやすいです。

また、島根署は合同庁舎内にあり、合同庁舎は比較的新しく木目調の内装のため落ち着いて仕事ができます。

【林野庁の魅力は？】

署の業務はデスクワークとフィールドワークのどちらも必要なため、机上の知識だけでなく現地の知識も業務を通じて習得できる点が魅力だと感じます。自然や森が好きの方にはぴったりだと思います。



地上型レーザースキャナー OWL を使った署内研修の様子
おおしど 大志戸国有林（雲南市）

森林事務所等紹介

西城森林事務所 (広島北部森林管理署) 森林官 峰村 裕一 (みねむら ゆういち)

西城森林事務所は、島根県の県境近くの庄原市に所在し、庄原市（旧庄原市、旧比婆郡西城町、東城町、旧甲奴郡総領町）を管轄区域とした国有林9団地（1706.68ha）及び官行造林地6団地（401.59ha）を管理しています。気候は、中国山地に影響を受けた内陸気候で寒暖差が大きく、冬季には雪が降り積雪が多めですが、管轄区域は豊かな自然、田園が多くを占め景色が良いところが魅力です。

また、庄原市と神石町高原町にまたがる帝釈峡国定公園周辺には、鍾乳洞「白雲洞」、寄倉岩陰遺跡などの自然や歴史を満喫できる観光スポットがあります。

当事務所では、最近では立木販売、造林事業を主に実施して来ましたが、令和7年度から倉造山国有林を対象に複数年にわたる森林整備事業（木材生産）として、保護伐（2.5ha以下の小面積皆伐）と間伐を組み合わせた施業を実施しています。当事業では、保護伐によって林齢が異なる林分をモザイク状に配置した森林へ誘導し、同時に間伐をすることで極力、裸地化を抑え、日光が入りやすい環境に改善することで下層植生の生育を促し、森林が持つ公益的機能の発揮を視野に入れた森林整備に取り組んでいます。そして、生産した木材を委託販売等するとともに、生産から造林へと一貫して施業を行うことで森林を更新する際の植付におけるコストの削減に努めています。

今後も事業を通して、持続可能な森林経営、健全な森林づくりに取り組んでいきたいです。



国史跡 寄倉岩陰遺跡



倉造山国有林で実施している森林整備事業

シリーズ『国有林最前線！』

ICT活用による業務効率化への取組について

～地上レーザスキャナ「アウル (OWL)」の実証～ 滋賀森林管理署

近年、局地的な集中豪雨が全国で発生しており、林道においても路肩崩壊や既設構造物の被災が各所で見られ、迅速な対応が求められます。林道の速やかな災害復旧を図るためには、各種資料作成を迅速かつ効率的に行うことが重要です。

このため、ICT技術の森林3次元計測システムOWL（以下アウル）を活用し、測量及び図面作成に要する時間や労力の削減を目的とした業務効率化の取組について実証を行いました。



① OWL 計測状況

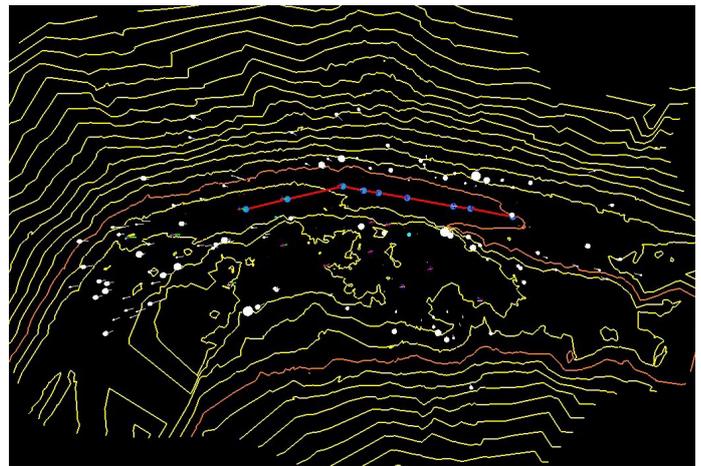
滋賀森林管理署で保有し、収穫調査に活用しているアウルと専用ソフト「Manager 及び Construction」を使用することで、従来のコンパスやトータルステーションを使用した測量と比較して計算や読取り間違いが生じにくく、測量技術を必要としないことから、場合によっては1人で計測も可能となり計測に要する時間及び労力の削減を図ることができました。

また、アウルは専用ソフトによる自動作図が可能であり、平面図では等高線を含む地形の描写ができるほか、縦断面図及び横断面図においても詳細な地形が図面に反映されるなど、作業効率の向上が実証できました。さらに、取得した3次元点群データは、任意の角度から現地の状況を確認することが可能であり、被災箇所の現地状況把握にも有効であることが確認できました。

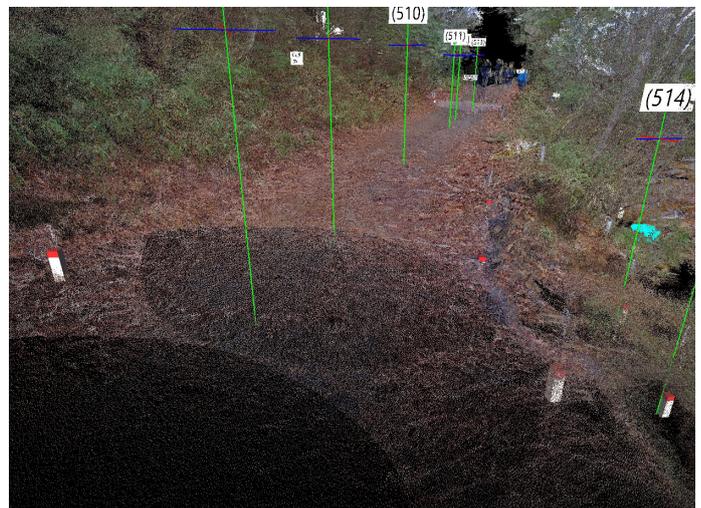
従来の測量手法との誤差を比較した結果においても、管理基準範囲内であり大きな差異は認められず、精度面においても問題ありませんでした。

このことから、災害申請要求資料の作成にとどまらず、治山・林道などの森林土木工事においてもアウルの活用は可能であり、業務効率化に有効であることが実証できました。

今後 ICT 技術を積極的に活用し、業務作業の効率化に取り組んでまいります。



② 作図平面 (青点：測点、黄線：地形等高線)



③ 取得3次元点群データ